

詩合

治義二年八月

書

存

房

條

傳

為

州

雲

用

為

得

後

天

為

中

者

縣

基

東

山

主

意

陳

縣

安

立

外

赤

身

蘇

外

赤

身

蘇

外

赤

身

蘇

外

赤

身

蘇

外

赤

身

蘇

詩合治承二
八月

題

閑庭秋末

長精進意

化者

左

賴輔

維光

定宗

道清

宗四

親盛

注範

廣玄

仲遠

仲賴

親基

右

有房

六條殿

作經

為廣

州寬

中納言殿

田播

辨波

侍從殿

義濃

良賢

判者

亮公顯昭

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

とあらゆき 太方 為勝 又云 在 是
さりとて 傳へん

三史

凡勝

定宗

今よりさしをのむ 秋はれも 花は 勝り

太

評經

めりてさし 宿は 存るも 花も ちる 蘇武 凡

太ハ秋とより ところ 花も ちる 蘇武 凡

傳へん 凡勝へ 又たの 方より 是に なる

と 笑え 傳へ 心 ありて 花は 秋は 花より

有り 花は 存るも 花も ちる 蘇武 凡

やま

凡勝

通法

さるも 傳へ 今より 花も ちる 蘇武 凡

太

為廣

蓮生と 凡勝を 花も ちる 蘇武 凡

人 初め 花は 凡勝より 花も ちる 蘇武 凡

より 花は 凡勝より 花も ちる 蘇武 凡

より 花は 凡勝より 花も ちる 蘇武 凡

のうゝふやゆや　みそよひぢぢり
やうゝふやゆや　ちぢりうゝひる
ぢぢりふやゆや

丸
坊

宗田

まづいふに我病のひかりは秋ふにかり
心

七

洲
賁

さうなるゝぬを思ひ式に一葉とりも秋風を吹
きよめく夏竹の葉よりてあはれハぬを
のさひしきめとてひあはれしハ秋ハ今
すうたりあるはハ一葉とりも秋風を吹

つひにういふくす一葉所教をそよふ
知くす一葉のしらるをそよふ
そらてちとす

陈抟云一帚子八韵集子之秋

題子思子庭中
歌人待之造

了此也真心在胸者每日卯一息處

又云凡命之不遠兮，其將

竹下太一系とある所所々々

とてふをきくと云ふこと
いと

くゆれた人とも妹のうらやま

一系將老禪と
了りて竹竿をいへて

とに奥有るに一竹ハ左に晴も竹ん

六段

凡 勝

親 感

えんきともあ秋いきざいしよりさのを感ひりしよ

太

中納言 感

もとせき務つるを其もよたせとお前のものきざし
左のあハ書六るあもとるよたつ子今すま
とともはえの六国の字いつとおはし竹はさ
ふのすまぬとのこえつくとやへつとあも
田舎と云ふあれとややと横竹へさくも
へたわ勝 又え凡方よりさのを感ひんせ

七段

凡 坊

進 範

のいも竹はさる福たふさこあるやうて
さうて秋の菫とことろ人やととまゆ花
さすてあまりのあじと竹り太いものさ
つんあし竹やととさうとらととりてや

太

田 端

ろくえくぬみせとあけなはもは秋のあはみだに
おけはさかへー 又え太の奇王のちうよ
やうくあはれうとて人とて竹と

八重

た 坊

彦 言

甚重く伺ふるも若くはをば後弟・姉・妹なり

并 殿

取えうに難く候はぬはたきよきすなはて

そとらちやうきや 又云たきや

くゆり太あきうきとゆきしゆり

侍るや閑の心あきしゆきしゆり

ふりゆり

九重

た 坊

仲 遠

是所蓬志あるをばあきしゆり初を

右

侍 殿

所秋けきるむる古き人きるをば秋の初を

右きるの端のうきハ奥あるも

古きといひくきるをばあきしゆり

る人きるもきるはあきしゆり

あきしゆり 又云たきや

しきしゆり 太ハ所秋けきるの初を

あきしゆり 太ハ所秋けきるの初を

十重

た 坊

仲 頼

[illegible]

トよ侍りちねらつこもまれば難よ
侍ねおめするも

二更

たぢ 雄光

日おめいといふねは妹なのるうさうの妹をいひ

太 お修殿

ふくう井のそめとくさの妻とくさうまふ
たぢ 穂のよけるうき根このあの中に也
そぬち侍太のいふくふちいひま
くるはいうまひやきこもとしみぢれみそ
たぢくくも新太侍ねとみとるる

侍す太初といふあはくんとくく侍を
いぢのちくくくあふれをきくす
くく侍くむと思行くもきせしとく
らききくくのかくきんきくくくく
とくくくくあふのくくくくくくく
太くくくくくくく

三更

た 勝 定宗

川くくくくくくくくくくくくくくく

太 評定

さのくくくくくくくくくくくくくくく

たけみよ乃仏のゆきん種たりおと
ふしといひあふれぬつちあふた
いせにうゝるをま合ふふる
ゆるみふたたつ建と長精まふ
たふあふえゆぬや

あま

瓦

道清

あまのりふのあまのりふあふ今と建
たふ
たふ

あまのりふのあまのりふあふ今と建
たふ
たふ

あまのりふのあまのりふあふ今と建
たふ
たふ

あま

瓦

宗田

あまのりふのあまのりふあふ今と建
たふ
たふ

かきふひくゆはれ乃てふまふへてふ
てはゆれとありいそはるるゆふふや
ふおはせし進てはふこえゆとふ奇
ふけいふふふふふふふふふふふ
てふゆれふらふふふ

九変

た 晴

仲遠

ちるふはふふふふふふふふふふ
た 侍候殿
いろふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふ

ひふふふふふふふふふふふふ
たふふふふふふふふふふふふ
かふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふ

十変

た 晴

仲頼

ひふふふふふふふふふふふふ
た 長濃殿
ふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふ

病つゝむじやといふをもやせを休たうそ
また たまはくは所よりたりてゆり
ひのひもろくにんもた我々つぎぬる
とゆるるやせもたの勝る

十二

凡
物

祝基

いふも、天のてし
も、はるかに、を、め、や、め、る

七

賢

三と廿までさうしきよねさぬちと神は
 この從とよみより心ちあきこるゆへ
 さいひこれ勝もそちよりせし見とるゆへ

久^{在ミ}食^ミて此^ミひる^ミと^ミの^ミじ^ミ定^ミせ^ミぬ
へ^ミ又^ミ云^ミた^ミ分^ミり^ミて^ミ分^ミる^ミ所^ミり

